

Q ^ぬ ^た 塗り足しとは？

A 右図のように、用紙の端までデザインがある場合に「塗り足し」は必ず必要となります。

右図の黒い点線が仕上がり線です。この仕上がり線よりも外側にはみ出ている部分を「塗り足し」と呼びます。

Q なぜ塗り足しが必要？

A 印刷物は実際の仕上がりよりも大きな紙に印刷をし、最終的にご指定のサイズに断裁して（切って）仕上げます。右図で言うと、黒い点線（＝仕上がり線）にて断裁するので、その線よりも外側にはみ出た「塗り足し」の部分は切り落とされることとなります。

断裁は、何百枚にもなる大量の用紙を重ねて、一気に断裁します。その際にズレが生じる恐れがあり、少しでもズレてしまうと紙の端に白色（印刷されていない部分）が出てしまいます。そのため、デザインは**実際の仕上がりよりも余分に大きめに**作っていただくことが必要です。

Q デザインする際の注意点は？

A 「塗り足し」とは切り落とされてしまう部分です。背景色や背景に置くイラストや飾り・オブジェクトのみを、仕上がり線よりも余分に伸ばしてください。（基本的には**上下左右3mmずつ伸ばします。**）ただし、切り落とされたくない文字等は、必ず仕上がり線よりも内側に置いてください。

NOTE BOOK

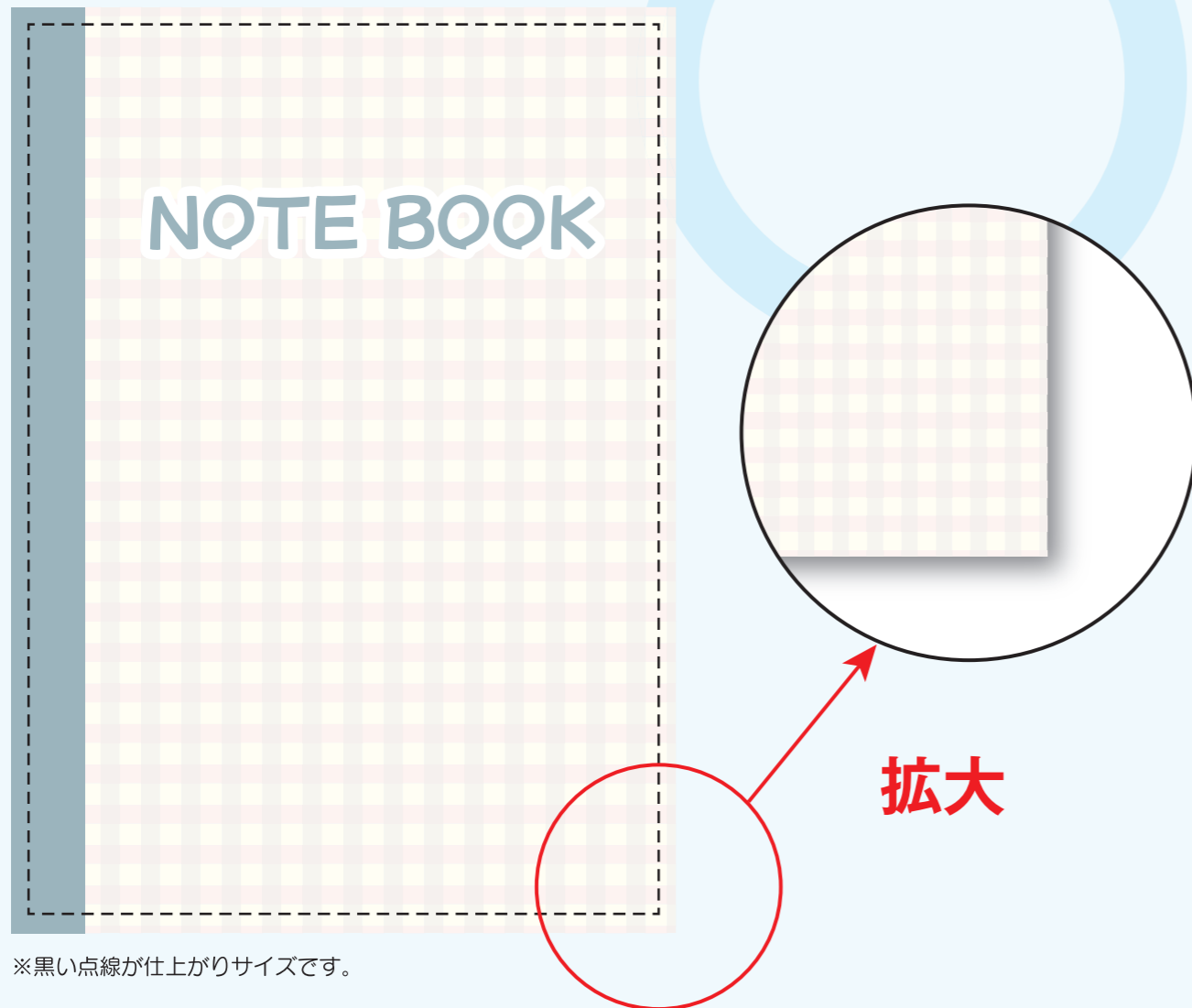
★このように文字が仕上がり線ぴったりに来てしまうと、断裁の際に一緒に文字までも切れてしまいます。

あいうえお、かきくけこ、さしすせそ、たちつてと、なにぬねの、は

あいうえお、かきくけこ、さしすせそ、たちつてと、なにぬねの、

★余白は最低3～5mmほど空けておいてください。

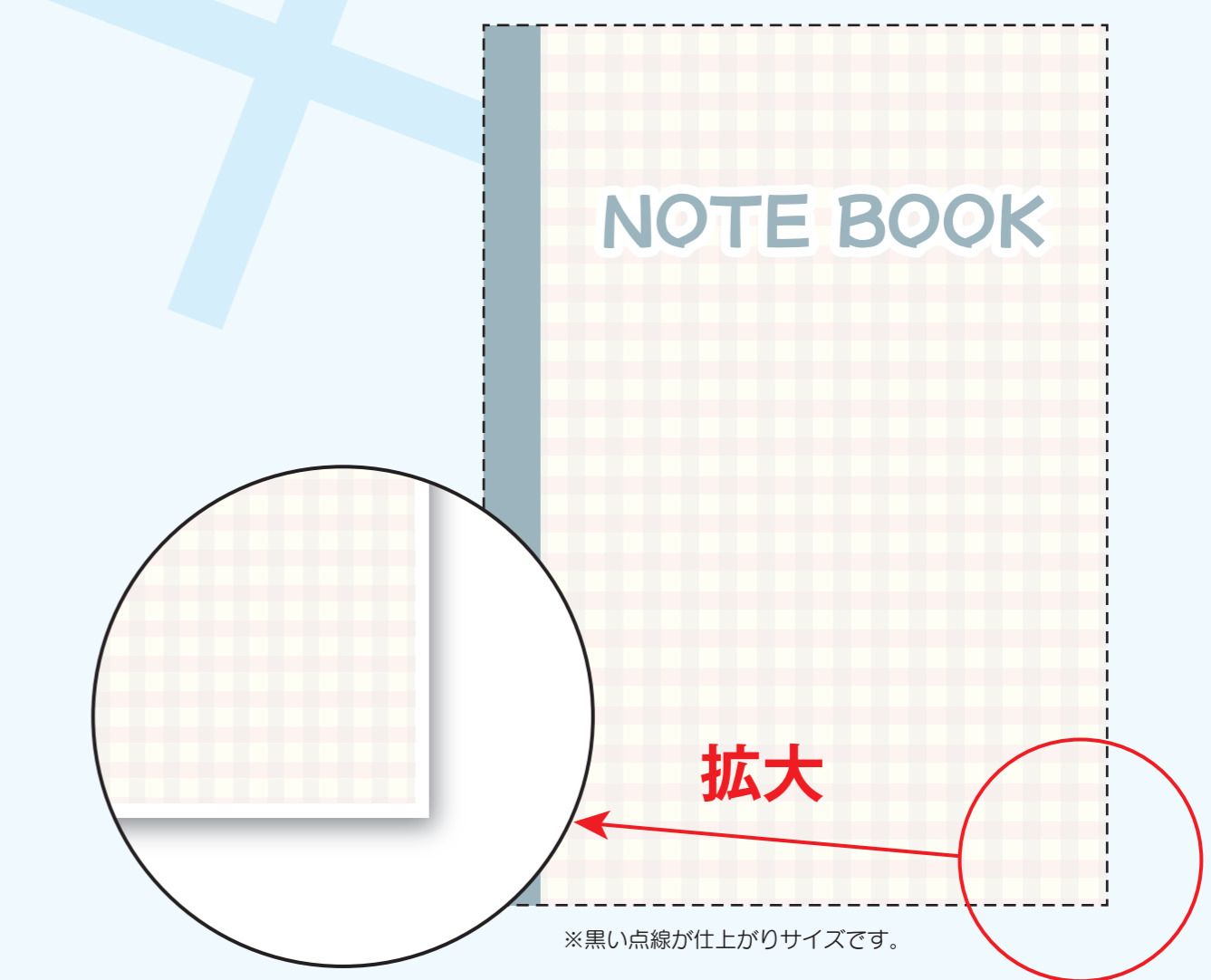
塗り足しがある場合



「塗り足しがある」、つまり仕上がりサイズよりも上下左右3mmずつデザインを伸ばして作られているものです。

塗り足しがあると、断裁の際にズれてしまっても背景が余分に大きく作られているので、用紙の端までキレイに仕上がります。印刷されていない白い部分が出ることはありません。

塗り足しがない場合



「塗り足しがない」、つまり仕上がりサイズぴったりに作られている場合です。

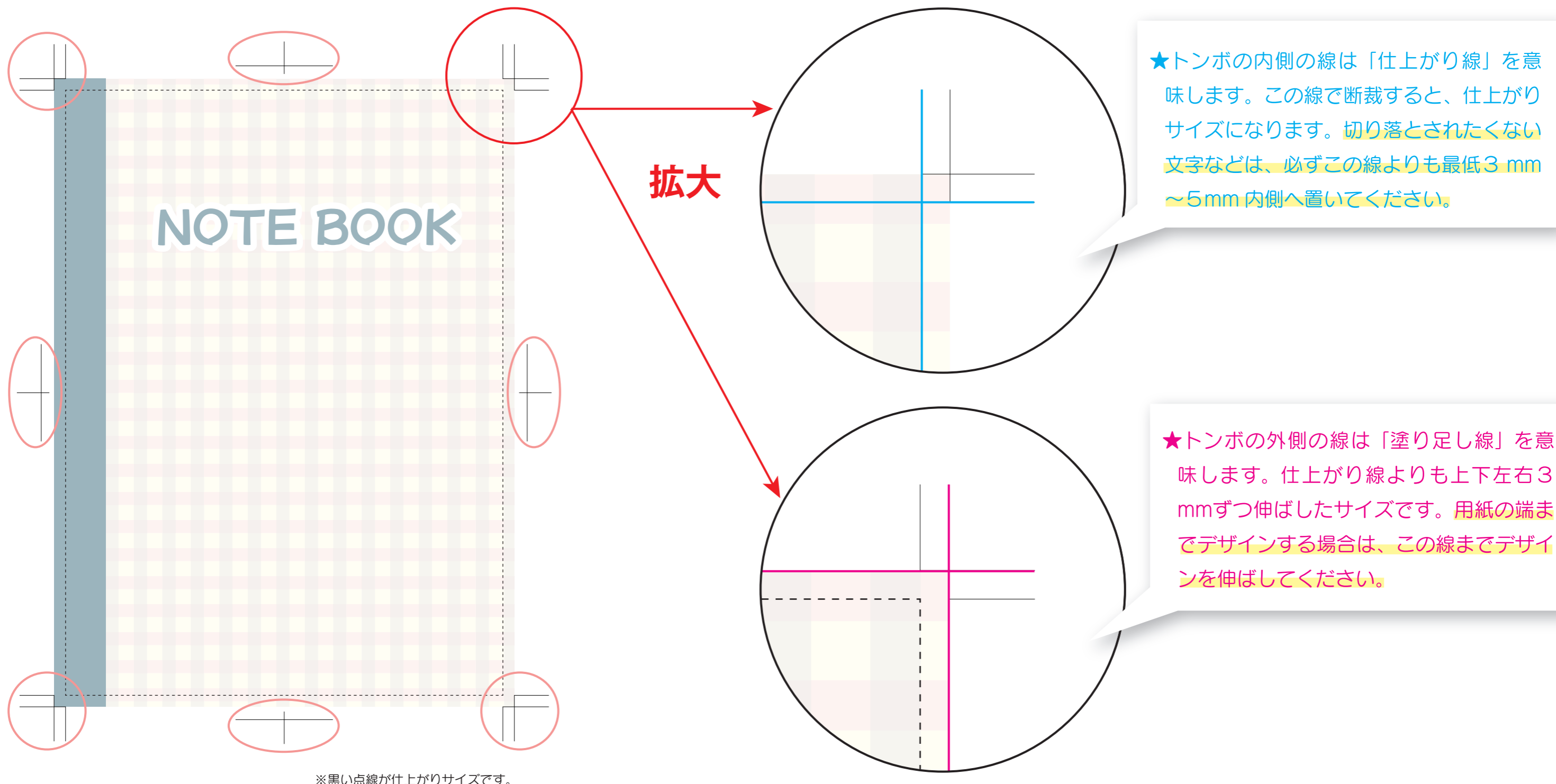
この場合、断裁の際に少しでもズれてしまうと用紙の端に印刷されていない白い部分が出てしまいます。

色と色の境目を1mmもズラさずに切るということは非常に困難なため、塗り足しの作成をお願いしております。

Q 「トンボ」と「塗り足し」の関係？

A データを作成するには「トンボ」というものが必要となります。下図をご覧ください。外側の角・上下左右に印のようなものがあります、これが「トンボ」です。トンボがあることで刷り位置などがズレないようにしており、印刷には欠かせないものとなっています。

では、トンボの形が表す意味についてご説明します。角にあるトンボをご覧ください。トンボの内側にある線は「仕上がり線」を表しており、この位置で断裁することで仕上がりサイズとなります。また、外側にある線は「塗り足し線」を表しており、用紙の端までデザインがある場合にはこの位置までデザインを広げます。



※黒い点線が仕上がりサイズです。

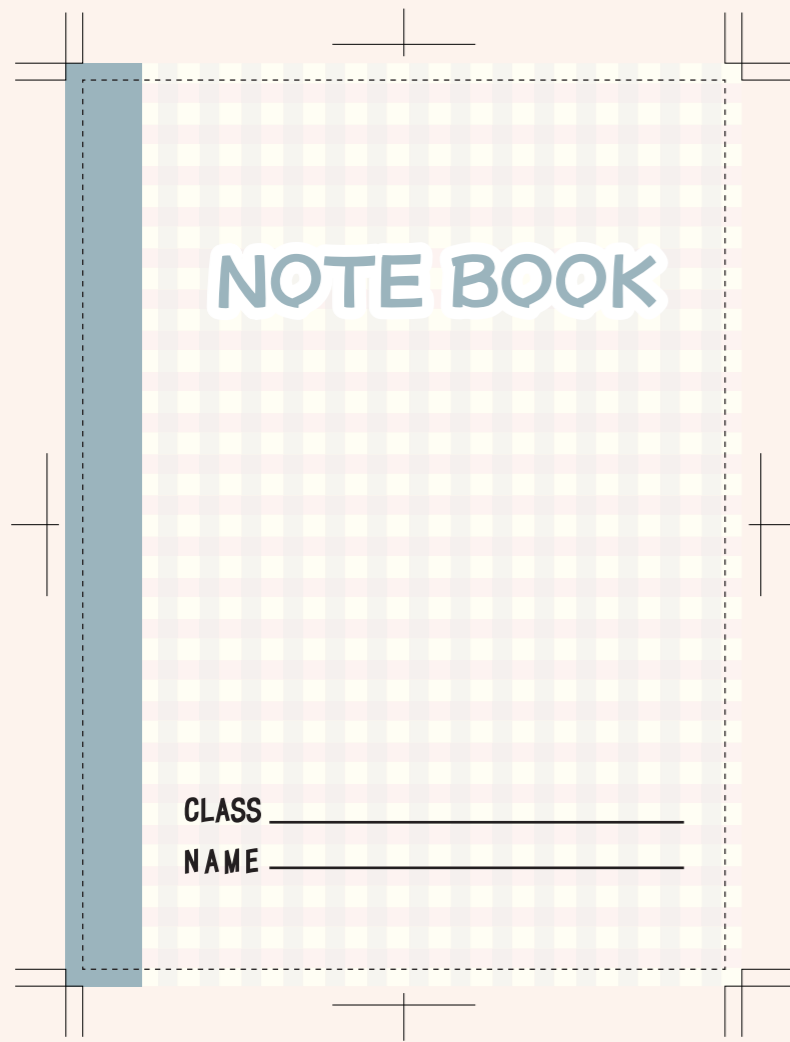
Q 塗り足し作成の成功例と失敗例



ここでは、デザインを作成した際の成功例と失敗例をご説明します。下図をご覧ください。

成功例

塗り足しまでデザインが伸ばされ、文字も仕上がり線よりも3~5mm以上内側にあります。問題なくキレイに仕上がります。



※黒い点線が仕上がりサイズです。

失敗例

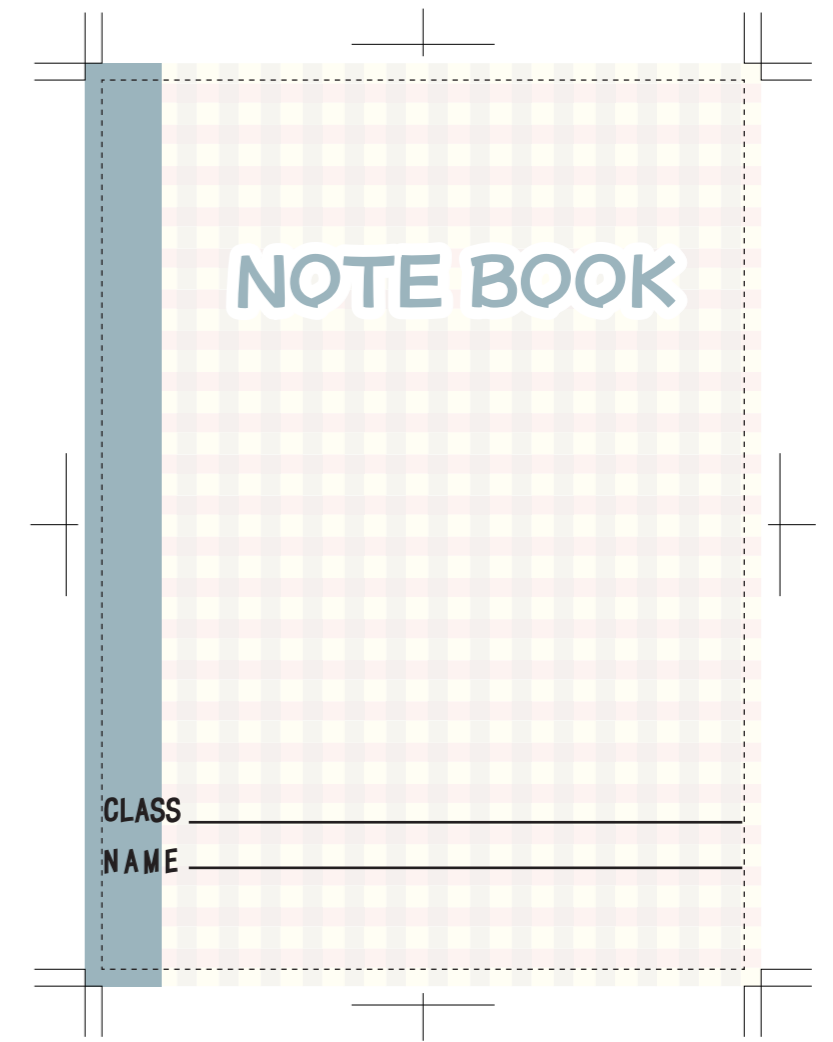
仕上がり線ピッタリに作成され、塗り足しまでデザインが伸ばされていません。用紙の端に白い印刷していない部分が出てしまいます。



※黒い点線が仕上がりサイズです。

失敗例

塗り足しまでデザインは伸ばされていますが、文字が仕上がり線ギリギリにあります。断裁の時に文字も一緒に切り落とされてしまいます。



※黒い点線が仕上がりサイズです。